2007年度　学術教養センターFDセミナー（2）

● 日時　2008年2月6日(水)　10：40～12：10
● 場所　経済棟9階　会議室
● 参加者　19名（学術教養センター10名、経済学部2名、生物資源学部1名、看護福祉学部5名、教育・学生支援部1名）

テーマ　「教養ゼミ」から「導入ゼミ」を考える

■教養ゼミの実践報告

津村文彦講師　「観光人類学入門」

概要

回ごとに細かく段階的に設定されたタスクを実践しながら、プレゼンテーションと討論を経て、最終的にはレポートの作成を目指す。

学年が上がった時に、どのように生かされているか、成果を知りたい。

亀田勝見准教授　「東洋を語ろう」

概要

グループ単位でテーマに基づく発表を行わせ、聴衆である他の学生に評価させることを複数回行わせる。目的は、口頭発表と資料を用いて発表する際の基本的ルールや心がけを、自分あるいは他者の失敗を通じて実感として学ばせることにある。

・手書きで資料を作らせることの意義が議論された。
・津村・亀田の両発表に関連して、「学生が行う相互評価そのものを教員が評価することはしているか?」「受け身の学習でなく、自分から働きかけようとする学習を大事にすべきではないか?」などの議論があった。

菊沢正裕教授　「環境学習」

概要

環境問題に関する書物を利用して、環境英語の理解・図書の紹介・課外学習・情報収集や比較討論などを行わせ、ポートフォリオやスライド作成などのスキルも養う。

環境問題について懐疑的な書物を取り上げ、その反論との対比を行うことによって、温暖化のメカニズムについての正確な知識を得させる。この過程を通じて、情報に対する正しい向き合い方を学ばせる。

■導入ゼミを考える

山川修教授　「導入ゼミに必要な学習項目を考える」

発表内容

導入ゼミ→教養ゼミ→学術ゼミの三層構造を明示した上で、導入教育において修得させるべきスキルとは何か、国内外の事例などを元に論じる。

同時に、個々のスキルを学ぶのではなく、統体としての調査・発表スキルを養成せねば意味がないのではないのか?という問題提起を行う。

自由討論

導入教育で修得させるべき項目には、スキル養成の他に、一般常識的レベルの知識不足を補完することもあるのではないか?という問題が提示された。

これについての各種意見は以下のとおり。

「学教センターの各種ゼミでスキルを学ばせるのならば、学部が二年から行っているゼミでは理科・社会分野に関する常識的な知識の蓄積に特化してもよいかも知れない」
「それを少人数教育ですべきことか」
「既存の大講義がその役割を担っているのでは?」
「学ばねばならない、という自覚を養成すればよい」

センターと学部との間で連携をとり効果的な役割分担をすることが必要だ、との共通認識を得る。

■総括

交野好子副学長

「本学の教育向上のために、このようなセミナーを1ステップとして、個々の教員に考えていってほしい。」

文責：学術教養センター　亀田勝見